「うまさ」と「力強さ」



(財)日本ハンドボール協会常務理事・普及本部長　角　紘昭

3月末は日本のハンドボール界にとって意義ある月であります。「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」「全国高等学校選抜ハンドボール大会」が開催されている時期です。このことは、13，4歳の約1600名、16，7歳の約1200名の選手たちがハンドボールゲーム一点に集中している瞬間です。また、この選手を取り巻く家族や観客が一つ一つのプレーや審判の笛に一喜一憂しているときであります。特にチームの指導者は、新チームを率いての初めての全国大会であり、この大会を通してこれまでの指導を反省したり、これからの指導方法についていつも以上に集中して考えたりしておられる瞬間であると思います。

この、日本中のハンドボール関係者が試合に集中している瞬間、私にとっては、「今年の出来はどうかな？」と期待で胸が一杯のときでもあります。時間の都合上この数年は中学生選手の様子しか見ることが出来ませんが、参加選手の体格、プレーの様子、監督の采配の仕方などから、ハンドボールというスポーツの「出来具合い」を確かめています。年々、この時期の中学生のプレーは「うまく」なってきています。ゲーム中にすばらしいプレーのコンビネーションも見られます。また、ハンドボールに対する理解度も深まっているように思われます。

「北京オリンピックアジア予選再試合」の結果、「スポーツをする意義を考えること」「国際関係の理解の必要性」「日本のプレーを省みること」「今後を見据えた選手の育成」等々について、様々な課題が出てきました。その中でも、二度の日韓対決の中で「個の強さ」の必要性を思い知らされたのは私ばかりではないと思います。「強さ」は

・コンタクトプレーの中でも崩れることなく意図したプレーができる力強さ
・切羽詰った状態の中でも的確に状況判断できる精神的強さ

の二つに要約できます。宮下充正東大名誉教授は「個人差はあるが無理なく心身の成長を促すには運動能力の発育順序を踏まえて鍛えること」として

・11歳以下は「跳ぶ」「走る」「投げる」という基本動作の習得に適した時期。様々な運動を楽しく続け、柔軟な身のこなし方を身につけると「脳・神経系」の発育に役立つ。
・12～14歳は体力面、精神面で「粘り強さ」を高める時期。走る距離を伸ばしたりスピードを上げるなど適度に負荷を与えることで「呼吸・循環系」の機能が向上する。
・15～18歳は「力強さ」を身につける時期。筋肉トレーニングなどで「筋・骨格系」を鍛える。

と年齢別の留意点をまとめ思春期における一般的、専門的なトレーニングの重要性を指摘されています。

また、今年3月に開催された第6回ハンドボールコーチング研究会（指導委員会主管）においても「…体格面で世界に劣る日本だからこそ、発達段階に応じた体力トレーニングというものを検討する必要がある…」との発表がされています。

少年期の指導者の方々は、ハンドボールの指導をする際に「はやさ」「うまさ」と同時に「力強さ」をあわせて考えいく必要があると思います。これまでの中で、これらの指導法についての情報交換の場や研修の場が少なかったように思います。今回のようにハンドボール界に衆目が集まってきた中で、さらに一歩、力強さをアピールした日本のハンドボールを作り上げるには日本協会もさることながら、各ブロック協会、各都道府県協会の中でも指導者の情報交換、研修の場の設定が急務であります。それと同時にハンドボール特有の体力を洗い出し、そのトレーニングの方法、指導時期を科学的に分析し、提示することも日本協会の重要な仕事と認識しております。

今年からは皆様のご理解とご協力により中学生の個人登録が始まります。日本協会としてはこの機会に、中学生チームの指導者、プレーヤーの方々に冊子やDVD等による具体的なトレーニング資料を直接お届けしようと考えています。

関係者が一丸となって小中高校時代の世代の育成に全力を注ぐことこそ、日本のハンドボールが名実共にメジャースポーツになるための最短距離だと信じています。それぞれのお立場の力を結集しようではありませんか。

北京オリンピック IHF 世界最終予選（女子）

日本、惜しくも出場権を逃す！！

北京オリンピック出場を賭けた女子の世界最終予選は、3月28日（金）～30日（日）の3日間、12ヶ国が4ヶ国ずつ3グループに分かれて、出場権を争った。日本は、ルーマニア、ハンガリー、ポーランドというヨーロッパの強豪国ばかりの第2グループに属し、ルーマニアのブカレストで3試合を行なった。
結果は残念ながら1勝2敗で3位となり、各グループ2位までという北京オリンピック出場権を惜しくも逃した。

◆第1日（3月28日（金））

▼1グループ（ライプチヒ・ドイツ）

クロアチア	31（18－15、13－10）25	キューバ
ドイツ	27（15－13、12－13）26	スウェーデン

▼2グループ（ブカレスト・ルーマニア）

ハンガリー	39（17－18、22－12）30	ポーランド
ルーマニア	44（18－12、26－ 9）21	日本

〔戦評〕北京オリンピックに向けての最終予選が始まった。初戦の相手はルーマニアであった。ルーマニアは体格的にもハンドボールのレベルも格上である。しかしながらオリンピックの切符を得るためには避けては通れない道である。

試合開始後、藤井、坂元と2点連取した。その後1点返されるも、すぐさま田中が取り返して日本がリズムをつかむ。攻守ともにベルト・バウワー監督が3年間かけて作り上げてきたハンドボールが機能した。大きなルーマニアを相手に小柄な日本が機動力を活かして得点を重ねた。守りでは要所での積極的なコンタクトで相手に有利な状況でシュートを打たせなかった。

前半15分で日本は11対7と4点のリードを奪った。ルーマニアは浮き足立ち、タイムアウトを申請した。さらにベンチスタートであった両45度のエースを2人ともコートに送り込み現状打開を図った。前半20分を過ぎたあたりで日本に立て続けに2本のミスが出てしまった。ルーマニアはすかさず日本側にあった主導権を奪い返した。ルーマニアは日本の攻撃に適応し、徐々に日本のシュートがゴールに届かなくなる。さらに日本のミスも手伝って前半終了までにルーマニアは11得点を上げ、12対18と逆転した。

後半、日本はなんとか巻き返しを図るも大きな壁にミスを連発してしまい、ルーマニアの速攻を許してしまった。日本としては非常に悔しい試合であった。最終得点は21対44。

【日本の得点】藤井6、坂元4、早船3、田中3、東濱3、大前1、小松1

▼3グループ（ニーム・フランス）

韓国	37（21－ 9、16－14）23	コンゴ共和国
フランス	34（16－ 7、18－ 3）10	コートジボアール

◆第2日（3月29日（土））

▼1グループ

スウェーデン	31（17－10、14－10）20	キューバ
ドイツ	22（ 7－ 5、15－11）16	クロアチア

▼2グループ

日本	29（14－ 8、15－19）27	ポーランド

〔戦評〕北京五輪最終予選2日目はポーランドとの対戦であった。昨日のルーマニアに引き続き体格で大きく日本を上回る相手である。日本チームは試合前に綿密なミーティングを行い、昨日の敗戦から心を新たにして試合に臨んだ。

試合内容はほぼパーフェクトと言っていいものであった。東濱が得た7mスローを藤井が決めて先取点。さらに小松が決めてリズムにのった。その後も左右の揺さぶりとクロスを織り交ぜた攻撃で巧くポーランドのディフェンスを崩して得点を重ねた。守りでは体を張ったコンタクトと相手の先を読んだけん制で攻撃を分断した。ポーランドは日本のディフェンスにかなりフラストレーションを溜めていたようである。さらにGK勝田の好セーブが光ってポーランドの得点を抑えた。前半15分で6対1と日本が5点のリードを奪った。ここでポーランドも徐々にリズムをつかみ始めた。長身を活かしたディスタンスシュートなどで連取し前半22分までに8対7と1点差まで詰め寄った。昨日のルーマニア戦の苦い印象が蘇えってきたが、ここから日本は小松の4得点を



写真提供：スポーツ・イベント社

含めて6連取し再びリズムを日本に呼び寄せた。前半は14対8で終了。

後半の立ち上がり、すこし息切れ気味の日本に対しポーランドが得点を重ねた。しかしながら途中出場の田中が要所で得点し一進一退の攻防となる。途中、日本に2人の退場者が出た場面でリズムが大きくポーランドに傾いた。後半19分、21対21の同点まで詰め寄られるが、日本はまったく浮き足立たず途中出場の佐久川らが踏ん張ってリードを許さなかった。後半27分の時点で27対26の1点差であったが大前のカットイン、藤井のディスタンスで連取し勝利を確実なものとした。最終得点は29対27。ベルト・バウワー監督が目指すハンドボールを1時間を通じて丁寧に実践した。理想像にかなり近い試合ができたのではないかと思われる。本日までの結果でルーマニアの2位以上が確定しオリンピックの出場権を得た。明日、日本対ハンガリーの勝ちチームが最後の切符を手にする。

【日本の得点】 田中9、小松7、藤井4、大前3、佐久川3、東濱2、坂元1

ルーマニア 31（17－13、14－16）29 ハンガリー

▼3グループ

コンゴ共和国 27（12－13、15－13）26 コートジボアール

フランス 25（13－14、12－11）25 韓国

◆第3日（3月30日（日））

▼1グループ

スウェーデン 24（11－11、13－11）22 クロアチア

ドイツ 37（21－14、16－ 7）21 キューバ

※ドイツ、スウェーデンが出場権獲得

▼2グループ

ハンガリー 39（20－14、19－15）29 日本

〔戦評〕北京五輪最終予選最終日はハンガリーとの対戦であった。前日までの結果でルーマニアが4チーム中2位以上を確実とし五輪出場権を得ている。さらにポーランドが2敗して最下位が確定しているため、残された最後の切符は日本とハンガリーのどちらかとなる。試合開始後、いつものように先制点でリズムをつかみたい日本であったが、この日はハンガリーが先制点であった。さらに2点目もハンガリーが取ってまずはハンガリーがリズムをつかんだ。日本もすかさず坂元、藤井の得点で2対2の同点として一進一退の攻防となった。前半14分までで9対9と双方とも一歩も譲らない展開であったが、少しずつハンガリーが地力の違いを見せ始めて連続得点し、24分までで10対7とリードを奪った。ここで坂元、東濱が踏ん張って14対20の6点差で前半を折り返した。

なんとか巻き返しを図りたい後半、出だしから取っては取られる展開となった。6点差、7点差の繰り返しで我慢比べの時間が続いた。ここでスパートをしたい日本であったが逆にハンガリーに先手を取られてしまった。後半10分から日本にとっての空白の時間が続き点差が開いてしまった。後半20分過ぎから日本は再度奮起し、すばらしいプレーを見せたが時すでに遅し。最終スコアは29対39であった。

全日本チームがオリンピック予選に向けて準備してきた全てをこの短い戦評に書き表すことは到底難しい。結果として大差での敗戦であるが、この最終予選の試合内容は胸の張れるものであると思う。一人ひとりのプレーヤーが全身全霊でぶつかっていった結果である。現時点でルーマニア、ハンガリーには力が及ばなかったが、こういった世界的に高いレベルの国に対抗できるようレベルアップしてくことが今後の課題である。

【日本の得点】 藤井10、小松5、東濱4、田中4、坂元4、大前1、長野1

ルーマニア 27（16－13、11－13）26 ポーランド

※ルーマニア、ハンガリーが出場権獲得

▼3グループ

韓国 38（15－9、23－12）21 コートジボアール

フランス 36（19－9、17－10）19 コンゴ共和国

※フランス、韓国が出場権獲得

選手名簿

	氏名	所属先
総監督	西窪　勝広	日本ハンドボール協会
監督	Bert　Bouwer	日本ハンドボール協会
コーチ	藤本　元	日本ハンドボール協会
ドクター	佐久間　克彦	熊本赤十字病院
トレーナー	倉田　忠司	トータルヘルスコンディショニング
分析担当	小笠原　一生	国立スポーツ科学センター

		氏名	所属先
1	GK	飛田　季実子	ソニーセミコンダクタ九州
2		勝田　祥子	オムロン
3		田代　ひろみ	北國銀行
4	CP	青戸　あかね	広島メイプルレッズ
5		小松　真理子	カストロ（スペイン）
6		田中　美音子	ソニーセミコンダクタ九州
7		佐久川　ひとみ	オムロン
8		坂元　智子	オムロン
9		小野澤　香理	北國銀行
10		早船　愛子	ゴヤ（スペイン）
11		水野　恵子	オムロン
12		上町　史織	北國銀行
13		大前　典子	広島メイプルレッズ
14		谷口　尚代	リーザ（ドイツ）
15		長野　かづさ	ソニーセミコンダクタ九州
16		植垣　暁恵	広島メイプルレッズ
17		東濱　裕子	オムロン
18		藤井　紫緒	オムロン



北京オリンピック世界最終予選に向けて

―アジア予選再試合を終えて

日本代表主将　中川　善雄

予選の再試合が決定し、再試合の当日までハンドボール界は激動の１ヶ月だったのではないでしょうか。豊田での予選後、新しく日本代表がスタートし、短期間ではありましたが、スタッフ、選手は「フェアな試合が出来る！」この想いの下、合宿を重ねてきました。

今回は「オリンピック予選の再試合」という事で、国民の関心も高く、それに伴い、とにかくマスコミの取材など今までに経験した事のない様な数で、選手の戸惑いも若干あったものの、完成したばかりのナショナルトレーニングセンターの環境が良く、集中してトレーニングを積むことができました。再試合出場国は韓国のみと決まり、試合場所も日本で、しかも東京での開催。環境面、食事の面など気にする必要もなくなり、過度なストレスを生むことなく生活を送ることができました。

試合当日は報道でもあった様に代々木体育館の会場は１万人を超す観客で埋め尽くされ、一面に染まった「ジャパンブルー」を見たときに鳥肌が立ちました。そして「日本代表の誇り」を改めて感じました。スタッフ、選手は「ハンドボールの素晴らしさを伝える最高のチャンス」と考えていましたし、「結果を恐れず、60分間チーム全員で“ファイト”する」ということを誓い合っていました。試合は常に韓国がリードし、日本が追いかけるという試合展開でしたが、最後までどうなるか分からない試合内容だったと思います。とにかくDFでは闘争心をもって相手を萎縮させ、速い展開からOFにつなげる。この繰り返しでしたが、結果が出なかった事がとても残念です。試合後は今までの様々な想いがこみ上げてきました。それは一言では言い表せません。僕らだけではなく今までハンドボール界を支えてきて下さった全ての人達の想いでもあると思います。



オリンピックアジア予選は終わりましたが、オリンピックへの道はまだ終わったわけではありません。５月の世界最終予選に向け今回のこの想いも「忘れない」でもう一度気持ちを高め、合宿に臨みたいと思います。最後に北京オリンピックアジア予選再試合に関わり、ご尽力頂いた全ての関係者の方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

北京オリンピック―IHF男子世界最終予選

【グループ分け】

トーナメント１	トーナメント２	トーナメント３
会場：ワルシャワ（ポーランド）	会場：パリ（フランス）	会場：ザダル（クロアチア）
ポーランド（POL）	フランス（FRA）	クロアチア（CRO）
アイスランド（ISL）	スペイン（ESP）	ロシア（RUS）
スウェーデン（SWE）	チュニジア（TUN）	**日本（JPN）**
アルゼンチン（ARG）	ノルウェー（NOR）	アルジェリア（ALG）

【日程】

トーナメント１	トーナメント２	トーナメント３
■１日目：５月30日（金） ISL―ARG，POL―SWE	■１日目：５月30日（金） ESP―NOR，FRA―TUN	■１日目：５月30日（金） RUS―ALG，CRO―**JPN**
■２日目：５月31日（土） SWE―ARG，POL―ISL	■２日目：５月31日（土） TUN―NOR，FRA―ESP	■２日目：５月31日（土） **JPN**―ALG，CRO―RUS
■３日目：６月１日（日） SWE―ISL，ARG―POL	■３日目：６月１日（日） TUN―ESP，NOR―FRA	■３日目：６月１日（日） **JPN**―RUS，ALG―CRO

北京五輪アジア予選再試合雑感

(財)日本ハンドボール協会監事　川上整司

北京五輪アジア予選やり直しは、オリンピック史上、また日本ハンドボール界に於いても勿論、未曾有の出来事だった。

メディアは、これを大々的に取り上げ、その一連の影響もあって、代々木第一体育館は一万人を越す大観衆に膨れ上がった。

いままでの五輪や世界戦の決勝を彷彿させる超満員の中で実現し、実に見事なものであった。日本国内で我がチームによる一戦、これを関係者は、どれ程夢みたことであろう。

館内の雰囲気は最高潮に達し、固唾を呑み、戦慄がはしる中で幕が開くのをじっと見詰めたものだった。

試合はハンドの命運を賭けた大一番となったが、全日本男女共に善戦虚しく敗れさった。しかし、歴史に残る好ゲームを展開したことは多くの人達の脳裏にいつまでも残ることであろう。

ハンドボールファン、いや経験者たちのいままで愛するハンドの世間評は、メディアに取り上げられないために、日の目を見ず、肩身の狭い思いをした経験は少なくなかったと思う。それらを一遍に吹き飛ばし、一躍ビッグスポーツに登りつめた様な爽快な気分を味わうことが出来たに違いない。

若き日に青春を賭けた人達も、また同じ思いの現役プレーヤーもメディアの連日連夜の報道に、内容はともあれ、突然世に出た驚きと喜びの中で、ハンドの将来に思いを巡らしたことであろう。

反面、あのAHFの体たらくは何なのだ。だからハンドボールはマイナーだという声もあり、一概に喜んでばかりいられない一面もあったのも事実である。

観客動員については、11人制当時、国際大会や国体等で万単位の人々を集めた過去はある。と先達の話や古い機関誌を紐解くとあったようだ。だが今回のように徹夜組や明け方から待つファンなどについては考えもしなかった。

マスメディアの報道は必ずしも正確とは言えず誤報もあったように思う。

マイナー、マイナーと放映された部分については、いままで、ハンドに対し、取材が皆無に近かったので学習不足のため、多くの記者が情報不足だったことは仕方のないことである。モントリオールからソウル五輪の間に、蒲生晴明（現強化委員長）や女子界では、天才少女と謳われ、第1回ジャパンカップのソ連戦で華麗なプレーを披露した沖縄出身の比嘉晴美選手などが現役当時、雑誌、新聞、テレビ等でしばしば掲載、報道され、ハンドもマスコミ受けする兆しを感じた時も過去にもあった。その後、オリンピック出場のチャンスを失ったことが原因だろうか、久しく低迷を続けていた。

ロス五輪当時の記者たちは、既に退職の年齢であろうし、若い世代の記者の皆さんは、その頃を知らないのは無理もなかろう。

しかし実態を良く把握して戴ければマイナーという言い方は少なくなるのではないか、それは昭和40年代頃から全国の指導者の努力によって急激な成長を遂げ、中学・高校・大学・実業団など他の人気スポーツに内容的には見劣りしない水準にまで高めたという、ある種の自負が我々にはあるからである。

ただ問題は、観客動員であるが、これは他の人気種目に比べて差があったのは確かである。「その様に人が集まらないなどを含めて、ハンドには、ニュースソースがなかった」と報道記者のひとりは言う。これは大変残念なことである。今更、言うまでもないが、昨今は、何と言ってもテレビ放映が普及の早道である。それを明確に証明出来たのは、スポーツマンNo.1を決定するテレビ番組で幸いなことに宮崎君が優勝した。それを見たファンや経験者が待望久しいハンド選手の映像を、そしてそれが他競技の並み居る「兵ども」を圧倒した勇姿に魅了されたことに違いない。それを裏付けるのは、後の日本リーグで女子高校生（勿論現役選手）が、ウォーミングアップする宮崎選手を追いかけ、彼が踵を返して動き回る度に集団となって移動する光景を見た瞬間だった。

ようやく出現したスーパースターと同時にテレビ放映の威力が重なり、それが普及に繋がることをこれ程までに再確認させられたことはない。宮崎選手は、その後もテレビ出演等が多く、正にハンドボールの救世主である。

もう一人、ここで言うまでもないが、「時の人」がいる。日本協会副会長の市原則之氏である。今やJOCの総務委員長（常務理事）として多忙な日々を送っている。前回のアジア大会では、日本選手団の総監督として活躍された。そして北京五輪では副団長の重責を担うという。氏が競技団体の中心として日本スポーツ界をリードしておられるのでハンドボールの地位が著しく高められている。

いままで、スポーツ界の発展の歴史は様々ではあるが、役員の合議制なるもので飛躍した例は少ないようだ。一人のカリスマ的な人物によって頂点強化され、底辺拡大に繋がった種目が多い様に思う。

組織の命運は指導者の能力によって左右するものである。

最後に将来を展望すると、全国各地で若い芽が沢山育ちつつあると聞く。また協会役員にも若い世代に優秀な人材があり、大いに期待出来る状況にある。

これからやらなければならないことは、まず頂点強化、強いナショナルチーム育成である。同時にカテゴリー別に独創的な大会を企画立案し、人を集める魅力ある大会を開催することが必要条件である。

そしていつの日か、人気スポーツの仲間入りをし、オリンピックでメダルを獲得して欲しいと願ってやまない。

ANA CUP 第32回 日本ハンドボールリーグ男子プレーオフ



大同特殊鋼、3年連続12回目の優勝を飾る

男子プレーオフを終えて

日本ハンドボールリーグ機構委員長　田中　茂

プレーオフ男子最高の試合!!

■はじめに

はじめに、第32回日本ハンドボールリーグ開催に際しまして、各開催地協会、スポンサー、ファンの皆様、また日本リーグを支えて頂きました多くの関係者の方々に深く感謝申し上げる次第です。誠にありがとうございました。また、今回のレギュラーシーズン中の男子世界選手権アジア予選の開催日程変更により、レギュラーシーズン男子代表選手がプレーできない期間もあり、大会運営にご迷惑をおかけいたしました事をお詫び申し上げます。来期以降も最善の努力をして行きたいと思っておりますので、今後ともご協力の程、宜しくお願い致します。

さて、レギュラーシーズン男子上位チームによる、プレーオフが3月15日（土）・16日（日）の両日、東京・駒沢体育館で今年も開催されました。

今大会は、女子オリンピック世界最終予選の開催日程等の問題で、男子単独でのプレーオフ開催となり、この大会を成功させる為に、企業、スポンサー、東京都ハンドボール協会、関東学生ハンドボール連盟、日本大学、早稲田大学、日本女子体育大学の学生等、大会運営にご尽力いただきました。そして会場に足を運んでいただいた多くのファンの皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

■プレーオフ準備

北京オリンピック再戦の際のメディアへの露出の影響もあり、準備段階から多くのファンが会場に足を運んでいただけるのではないかと考え、昨年以上の準備を行ってきました。準備期間としては、男子世界選手権アジア予選がレギュラーシーズン中の開催で、一部日程を変更しての大会運営であったため、プレーオフ出場チームが最後までもつれ、対戦カード、プログラム等の準備期間が非常に短く大変でありました。

プレーオフアリーナ席前売り完売!!

■プレーオフ

男子準決勝、男子決勝とも熱戦が展開され、観客（ファン、応援団）と選手が一体となり、会場は今まで以上の盛り上がりをみせました。試合会場には多くの観客に来場いただき、その前で選手達はプレーし、手に汗握る試合を連日展開しました。

そのなかでも、男子の決勝戦は60分では決着がつかず、更に第一延長、第二延長でも決着を持ち越し、プレーオフ史上初の7ｍスローコンテストまでもつれるスリリングな試合となりました。会場に詰め掛けた観客も、選手も、運営している全ての人たちも興奮しハンドボールの面白さを十分堪能した試合でありました。

激闘の末、優勝した大同特殊鋼、惜しくも準優勝に終わった湧永製薬の両チーム関係者、選手に感謝したいと思います。

■ご来賓の皆様

今回も高円宮妃久子殿下には、男子の決勝戦にご臨席を賜りご観戦頂き、賞賛のお言葉をいただきました。誠にありが

第 32 回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了（平成 20 年 3 月 8 日）

順位		湧永	大同	大崎	車体	紡織	Honda	北電	トヨ自	合成	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	湧永製薬		31 29 △○ 31 25	27 34 ●○ 39 33	39 31 ○○ 35 28	29 35 △○ 29 29	32 33 ○○ 23 27	40 29 ○○ 22 9	40 45 ○○ 22 16	35 38 ○○ 21 21	16	13	2	1	547	410	137	28
2.	大同特殊鋼	25 31 ●△ 29 31		29 34 ●○ 33 32	35 41 ○○ 33 31	32 37 ○○ 31 33	32 29 ○○ 25 26	36 33 ○○ 27 17	41 39 ○○ 19 21	46 35 ○○ 25 30	16	13	1	2	555	443	112	27
3.	大崎電気	33 39 ●○ 34 27	32 33 ●○ 34 29		40 35 ○○ 34 32	36 39 ○○ 32 27	27 31 ●○ 31 23	38 36 ○○ 23 28	43 42 ○○ 21 28	46 38 ○○ 25 24	16	13	0	3	588	452	136	26
4.	トヨタ車体	28 35 ●● 31 39	31 33 ●● 41 35	32 34 ●● 35 40		36 31 ○○ 31 25	28 25 ○△ 27 25	35 37 ●○ 36 19	35 37 ○○ 24 17	34 43 ○○ 27 23	16	8	1	7	534	475	59	17
5.	トヨタ紡織九州	29 29 ●△ 35 29	33 31 ●● 37 32	27 32 ●● 39 36	25 31 ●● 31 36		36 32 ○○ 34 25	35 25 ○△ 23 25	39 43 ○○ 29 22	28 39 ○○ 20 32	16	7	2	7	514	485	29	16
6.	Honda	27 23 ●● 33 32	26 25 ●● 29 32	23 31 ●○ 31 27	25 27 △● 25 28	25 34 ●● 32 36		28 28 ○○ 21 21	32 32 ○○ 27 24	35 38 ○○ 24 29	16	7	1	8	459	451	8	15
7.	北陸電力	9 22 ●● 29 40	17 27 ●● 33 36	28 23 ●● 36 38	19 36 ●○ 37 35	25 23 △● 25 35	21 21 ●● 28 28		26 33 ○○ 25 14	29 28 ○○ 27 23	16	5	1	10	387	489	-102	11
8.	トヨタ自動車	16 22 ●● 45 40	21 19 ●● 39 41	28 21 ●● 42 43	17 24 ●● 37 35	22 29 ●● 43 39	24 27 ●● 32 32	14 25 ●● 33 26		29 29 ○● 21 30	16	1	0	15	367	578	-211	2
9.	豊田合成	21 21 ●● 38 35	30 25 ●● 35 46	24 25 ●● 38 46	23 27 ●● 43 34	32 20 ●● 39 28	29 24 ●● 38 35	23 27 ●● 28 29	30 21 ○● 29 29		16	1	0	15	402	570	-168	2

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表し、左側がホーム，右側がアウェイの結果を表す。

とうございました。

また、安西孝之・日本体育協会名誉会長ご夫妻、水野正人・日本オリンピック委員会副会長、全日本空輸株式会社、株式会社アシックス、株式会社モルテンをはじめ多くのご来賓の皆様、協賛企業の皆様にも激しい試合をご堪能頂きました。

■第 33 回大会に向けて

来年度第 33 回大会も各地で開催されますが、来期から男子チームが 1 チーム（琉球コラソン）増え、10 チーム 2 回戦総当りの試合が行われます。来期の第 33 回大会も各地で熱戦が展開されることと思います。また多くの観客がハンドボールの試合会場に足を運んでいただけるよう、リーグ運営にも今後努力して行きたいと思います。

第 32 回プレーオフでは、試合内容、試合演出、観客数、試合運営と私共が目指しているハンドボールに近づいてきていると考えております。しかし、まだまだ色々な意味での改善点・修正点は多くの方々の意見を聞きながら、迅速に対応していきたいと考えております。

また、日本ハンドボールリーグが国際レベルでの競技力向上の場として、今後一層重要になってきますが、私共は内外の期待に沿うべく、更なる努力を積み重ねて行きたいと考えております。どうか皆様、今後ともご指導、ご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。

今期以降も多くの方々に、支援、支持されるハンドボールリーグを目指し、努力していきたいと考えております。ありがとうございました。

第 32 回日本ハンドボールリーグ 男子一部表彰選手

最優秀監督賞…………清水　博之（大同特殊鋼）初
最高殊勲選手賞………白　　元喆（大同特殊鋼）２回目
殊勲選手賞……………坪根　敏宏（湧永製薬）２回目
得点王…………………末松　　誠（大同特殊鋼）127 点　初
フィールド得点賞……末松　　誠（大同特殊鋼）113 点　初
シュート率賞…………阪　　昭博（トヨタ紡織九州）0.798　初
７mスロー得点賞……香川　将之（トヨタ車体）40 点　初
７mスロー阻止率賞…木下　国大（トヨタ車体）0.400（8/20）　初
最優秀選手賞…………末松　　誠（大同特殊鋼）　初
最優秀新人賞…………山口　恭裕（トヨタ自動車）
ベストセブン　ＧＫ　坪根　敏宏（湧永製薬）　７回目
　　　　　　　ＣＰ　豊田　賢治（大崎電気）　３回目
　　　　　　　　　　末松　　誠（大同特殊鋼）　初
　　　　　　　　　　山口　　修（湧永製薬）　７回目
　　　　　　　　　　白　　元喆（大同特殊鋼）　５回目
　　　　　　　　　　李　　才佑（大同特殊鋼）　２回目
　　　　　　　　　　宮﨑　大輔（大崎電気）　４回目
ﾍﾞｽﾄﾃﾞｨﾌｪﾝﾀﾞｰ賞 ……冨田　恭介（大同特殊鋼）　２回目
フェアプレー賞………湧永製薬　122 点／ 16 試合（7.6 点／試合）


最高殊勲選手賞の
白元喆（大同特殊鋼）


ご来賓の皆様と協会役員

戦　評

■準決勝第1試合

湧永製薬　39 (19－12、20－15) 27　トヨタ車体

湧永製薬、固いディフェンスで車体の攻撃を封じ決勝進出！

プレーオフ準決勝1試合目は、レギュラーシーズン1位湧永製薬と4位トヨタ車体との対戦。湧永が18番渡辺のサイドシュートで先制。その後も湧永は固いディフェンスとGK12番坪根の好セーブもあり、19番山口のポストシュートなど5連続得点で、前半9分8対1とリード。車体は、ディフェンスシフトを3－2－1に変更し、18番崎前のサイドシュートや19番銘苅の速攻で追い上げるも、湧永は3番下川の速攻で車体の反撃を突き放し、19対12と湧永の7点リードで前半終了。

後半に入り、車体は20番門山のロングシュート、18番崎前のサイドシュートで反撃する。しかし、湧永はGK坪根を中心とした固い守りで、後半19分、33対20で大量リード。車体も17番香川のミドルシュート、8番藤田の速攻で必死に食い下がるも、湧永は3番下川の速攻や13番新のサイドシュートなどで引き放し、湧永が39対27で勝利した。湧永は最後までペースを崩さなかった。



■準決勝第2試合

大同特殊鋼　38 (17－13、14－18、4－2、3－3) 36　大崎電気

大同・末松選手10得点、接戦の末、大同が勝利！

プレーオフ準決勝2試合目は、レギュラーシーズン2位大同特殊鋼と3位大崎電気との対戦。大崎は開始から攻撃のリズムがあわずミスが続き、一方の大同は4番末松のステップシュート、17番山本のサイドシュートなどで前半12分8対2と大同リード。しかし、大崎はディフェンスを6－0から3－2－1に変更し、反撃開始。大崎は2番豊田のカットインや19番猪妻のサイドシュートで、前半19分11対8と追い上げる。その後は一進一退で両チーム激しい攻防が続き、17対13の大同リードで前半終了。

後半に入り、大崎は19番猪妻の速攻、21番宮崎のミドルシュートで、後半11分すぎ23対22の1点差に追いつめた。その後も大崎はリズムが良くなり5番中川のロングシュートで後半23分ついに26対26の同点に追いついた。その後は、お互い一歩も譲らず31対31の同点で延長に入った。

延長では、大同が4番末松、20番ペクの活躍で、大崎の反撃をかわし、38対36で激戦を制した。



■決勝

大同特殊鋼　39 (14－15、12－11 / 4－4、4－4、5－3) 37　湧永製薬

第2延長でも決着がつかない熱戦の末、7mスローコンテストで大同3連覇達成！

大同特殊鋼9番武田のシュートで幕を開けた決勝戦。立ち上り両チームとも、ゴールキーパーの好守もあり、締まりあるスタートとなった。湧永製薬が東長濱のトリッキーな7mスローでチームを盛り上げると、大同もペクの連続得点、地引のシュートなどで追撃。中盤以降退場者が続出したが、両チームともディフェンスの足もしっかり動いており、点差が離れることなく湧永の1点リードで前半を終了した。

後半開始、大同が高木の好守から同点とする。湧永も10分過ぎにスカイプレーなどで突き離そうとするが、大同もペク、山城などの速攻で食いつく。中盤、湧永は下川の3連取もあり再び突き放す。しかし25分、湧永下川がレッドカ


湧永製薬・中山監督　　大同特殊鋼・清水監督

ードで退場となり、27 分に大同が地引の同点ゴールで試合を再び振り出しに戻す。同点のままの残り 18 秒、湧永はタイムアウトを要請。終了間際に放った湧永の東のシュートもゴールとはならず、延長戦へ突入した。

延長戦開始 1 分、大同ペクのシュートが決まり試合が動く。湧永も東の 7m スローで追いつくが、ペクの勢いが止まらず 28 対 27 で延長前半が終了した。延長後半、山城、ペクのシュートが決まり大同勝利かと思われたが、地引の退場、武田のレッドカードにより、再び湧永が息をふき返し、30 対 29 大同リードの残り 2 秒、湧永キャプテン古家のステップシュートが決まり、30 対 30 となり、第 2 延長へと望みをつないだ。





第 2 延長前半、第 1 延長終盤の退場者を引きずる大同が沈みかけたが、末松が 2 得点とし、32 対 31 で第 2 延長前半を終了した。第 2 延長後半、湧永は山口、渡辺とベテラン勢が逆転ゴールを決め突き放そうとするが、大同もねばりをみせ、ペク、岸川の執念のゴールで 34 対 34 の同点となり、プレーオフ初の 7m スローコンテストとなった。

大同はキーパー荻田、湧永は坪根での勝負となった。大同の先攻で始まった 7m スローは、大同がペク、末松と決めて迎えた湧永 2 人目の古家のシュートを、キーパー荻田がはじき返して大同が有利に。その後も大同は全員が 7m スローを決め、3 年連続 12 回目の優勝をもぎ取った。

















平成19年度

第31回全国高等学校ハンドボール選抜大会

男子：北陸高等学校（福井県）女子：府立洛北高等学校（京都府）が優勝を飾る

総評 大会を振り返って

徳島県ハンドボール協会理事長 佐藤 公美

“頑張れ！全国の精鋭たちよ。花開け早春の徳島で。”のスローガンのもと、昨年度に引き続き、四国徳島で開催された本大会は、3月24日の開会式に始まり30日の決勝まで、アジア予選再試合の影響を受けたのか、前年以上に開催地の関心も高く成功裏に大会を終了することが出来ました。

大会を振り返って、運営面においては、前回の反省から大会参加者及び関係者に、ご迷惑ご不便をおかけしたことについても実行委員会で検証し、わざわざ徳島においでいただく皆様に喜んでいただける大会にしようと頑張りましたが、まだまだ万全の態勢で受け入れられたとは言い切れないと痛感いたしました。いよいよ今年度は三年目の集大成とも言うべき、徳島県での最後の大会になります。参加していただく皆さんの思い出に残る大会として運営していきたいと考えております。

さらに、競技に目を移しますと、新チームになっての初めての大会ということもあり完成度から言うと、満点ではないにしろ全国のブロックを勝ち上がって出場権を獲得したチームの迫力あるゲームには県内競技関係者も大いに刺激を受けました。優勝されました男子福井県北陸高等学校、女子京都府立洛北高等学校、決勝の舞台で戦われた男子茨城県立藤代紫水高等学校、女子香川県立高松商業高等学校の選手役員の皆さんおめでとうございました。特に女子四国勢として初めて決勝戦に駒を進められた高松商業には、大会を最後まで盛り上げていただき感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。残念ながら開催地代表として出場した男子徳島市立高校・女子県立城北高校は緒戦で敗退しましたが、今夏のインターハイ出場を目指し、また選抜徳島大会最終年での地元初勝利に向け、新たな気持ちでスタートしています。大会に参加しながらも満足な結果が得られなかったチームの皆さんも、さらに精進を重ねられて最高の状態で各地でのインターハイ予選に臨んでください。また、埼玉インターハイでお目にかかれることを楽しみにしています。

最後になりますが、開催にあたりご協力くださいました日本ハンドボール協会・全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部・協賛各社の皆様に誌面をお借りしてお礼を申し上げるとともに、第32回大会でのご協力をお願いいたしまして第31回選抜徳島大会の回顧といたします。

男子優勝：北陸高等学校（福井県）

平成19年度全国選抜大会を振り返って

北陸高等学校男子ハンドボール部監督 志々場 修二

まずは、平成19年度第31回全国高等学校ハンドボール選抜大会におきまして、初優勝ができましたことに対し、日頃よりご支援ご協力いただいております学校関係者の皆様、県体育協会、県高体連の皆様、ご父兄、ＯＢの皆様に深くお礼申し上げます。有難うございました。

昨年のチームは、春の全国選抜大会準優勝、そして佐賀インターハイ、秋田国体の二冠という素晴らしい成績を残してくれました。昨年のレギュラーからは、キャプテンの平子卓人が一人だけ残り、新チームがスタートしました。相次ぐ主力選手の怪我で、満足のいく練習ができたとは言えず、大会1ヶ月前にようやく全員が揃ったという状況でした。

本大会では、初戦から、持ち味であるアグレッシブなディフェンスと、スピードあるオフェンスを十分に発揮して勝ち進むことができ、また、若いチームでもあり、試合ごとに自信をつけていくことができたと思います。昨年度に続き、藤代紫水高校と決勝戦となりましたが、お互いの持ち味を十分に発揮し、スピードのある試合展開となりました。後半に入っても、走りきることを徹底し、念願の初優勝を手にすることができました。

最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者の皆様、会場で応援してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。

平成 19 年度全国選抜大会を振り返って

北陸高等学校男子ハンドボール部主将　平子 卓人

今回の全国選抜では、昨年に続いての決勝進出となり、全国選抜大会初優勝という最高の結果で新チームのスタートを切ることができました。

大会では、日頃から練習してきたディフェンスからの速攻を十分に発揮することができ、また、毎日 6 ㎞ランニングの成果もあり、60 分間フルに走りきることができました。特に、2 年連続になった藤代紫水高校との決勝戦では、その持ち味を十二分に発揮し、優勝できたことは、今後の大きな自信にもなりました。

昨年は、この大会の決勝で悔し涙を流し、インターハイでのリベンジを胸に練習に取り組んだ結果、インターハイと国体の二冠を獲ることができました。今年は、逆に追われる立場になったわけですが、昨年からの経験を活かし、また、今大会の結果を良い意味での自信に変え、インターハイ、国体に向けて努力していきたいと思います。

最後になりましたが、日頃から、ご支援、ご指導頂いている皆様に心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



写真提供：スポーツ・イベント社

女子優勝：府立洛北高等学校（京都府）

全国選抜大会を振り返って

府立洛北高等学校ハンドボール部　乾　彩友美

平成 19 年度第 31 回全国高等学校ハンドボール選抜大会において優勝させていただきました。このような結果を残すことができたのも、今大会の運営にあたり御尽力いただきました大会関係者の皆様、地域の皆様のおかげであり、また洛北高校に御支援、御声援を賜りました学校関係者の皆様、卒業生の皆様、保護者の皆様をはじめ数多くの方々の温かいお心遣いがあったからです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

去年のチームでは三冠を達成したので、12 月に行われた全日本総合という大会に出場させていただいたため、新チームとしてのスタートがどこのチームよりも遅れていました。しかし、先輩方が引退されてからも私たちのために練習の方へ来て下さって指導をしていただいたため、内容の濃い練習をすることが出来ました。大会前の合宿や大会期間中も練習に参加していただいたので、このような短い期間でしたが、ここまで成長することが出来ました。

今大会では優勝することが出来ましたが、正直ここまで来れるとは思っていませんでした。チームとしての一体感がありなく、ミスも多くありました。何試合も試合をさせていただいていく中でたくさんの課題が見つかりました。この課題を克服できるようにし、夏のインターハイに向けて頑張っていきます。目標はインターハイ優勝なので、新 1 年生と共に、またゼロからのスタートという気持ちで日々の練習に向け取り組んでいきます。ありがとうございました。



写真提供：スポーツ・イベント社

戦　評

男　子

◆準決勝

北　陸　36（21 － 17、15 － 18）35　瓊　浦

【前半】［1 ～ 10分］序盤、瓊浦は2枚のイエローカードを出してしまう。そのスキを見逃さず、北陸はキャプテン平子を中心に次々と連続得点を加えていく。一時は7点差までひらいた。北陸はスタートダッシュに成功した。［11～20分］流れはまだ北陸にあり、瓊浦は退場者を出し、7m スローを外すなどのミスがあり、北陸に4連続得点を許した。しかし、瓊浦は、粘りを見せ、そのあと4連続得点をとった。［21 ～ 30分］ここから両方とも連続得点を与えず、安定して得点を加える。退場者を出しても瓊浦は一人いないことを感じさせず、少しずつ追い上げる。前半は北陸4点リードで終わる。

【後半】［1 ～ 10分］後半序盤は前半と同じように北陸が3連続得点をあげ、主導権を握るかと思われたが、そこから瓊浦の反撃は始まった。流れが徐々に瓊浦に傾いてきた。［11 ～ 20分］この10分あまりの間に、サイドシュート左右合わせて8本も入れ、瓊浦を盛り上げた。スカイプレーも混ぜ、完全に流れは瓊浦にあった。［21～30分］北陸も底力を見せ、リードさせることなく、落ち着いて得点を重ねていく。最後まで勝負がわからなかったが、北陸が瓊浦を振り切り、勝利した。

藤代紫水　38（17 － 14、21 － 7）21　小林工業

【前半】［1 ～ 10分］立ち上がり、藤代紫水がサイドシュートなどで、3点連続先取する。その後も、高さとスピードのある攻撃で、着実に点を稼いでいった。それを追いかける小林工業も積極的な攻めを見せる。［11 ～ 20分］小林工業は2度、退場者を出すが、粘りあるディフェンスやGK下道の好セーブなどで、大幅なリードを許さない。しかし、藤代紫水も、高いディフェンスやGK好セーブなどで、なかなか点を入れさせない。［21 ～ 30分］藤代紫水は元木のサイドシュートなどで、着実に点に繋げていった。小林工業もスピードのある攻撃で反撃を試みるが、藤代紫水の強固なディフェンスを崩すことができず、前半3点のリードを許した。

【後半】［1 ～ 10分］藤代紫水は5連続得点でリードを広げ、後半もリズムを掴んだ。それに対し小林工業は、リズムを掴むことができず、思い通りの攻めがなかなかできない。［11 ～ 20分］試合の流れを変えるため、小林工業はチームタイムアウトをとり、一度は流れを掴みかけたが、勢いの止まらない藤代紫水が、速攻など5連続得点で、さらにリードを広げていった。［21 ～ 30分］小林工業は退場者を2人出しながらも、懸命なディフェンスや、津山の活躍で反撃を試みるも、最後までリズムを掴むことはできずに、藤代紫水が決勝進出を果たした。

◆決　勝

北　陸　43（20 － 23、23 － 13）36　藤代紫水

【前半】［1 ～ 20分］立ち上がり、両者ともほぼ互角で始まった。藤代紫水の持ち味のクイックスタートを活かして得点を加える。北陸は、シュートミス、パスミスで、藤代紫水にリードを許す。［11 ～ 20分］北陸は序盤のミスを修正し、互角に試合を進める。両方とも相手のミスを活かし、得点を重ねる。両チームとも3連続得点を許さない粘りのあるディフェンスをする。［21 ～ 30分］北陸は退場者を出すが、シュートを打たせないディフェンスをし、逆に得点を加え、リズムに乗る。しかし、シュートミスが増え、藤代紫水に速攻され、前半は藤代紫水が3点リードする。


写真提供：スポーツ・イベント社

【後半】［1 ～ 10分］後半に入っても両者とも互角だった。オーバーステップ、チャージングやシュートミスが両者とも増えるが、北陸キャプテン平子は落ち着き、2連続で速攻シュートを決める。［11 ～ 20分］藤代紫水のミスが目立ち始め、徐々に北陸がつき離す。藤代紫水のクイックスタートが裏目に出て、パスカットやチャージングで逆にリズムを失った。［21 ～ 30分］その後も藤代紫水は北陸に離され、残り5分で全員にマンツーマンディフェンスをし、最後の希望を託すが、逆に点を入れられ、万事休す。最終的に7点に点差が開く結果となった。


写真提供：スポーツ・イベント社

女　子

◆準決勝

洛　北　32（17 － 9、15 － 13）22　大分鶴崎

【前半】〔1 ～ 10分〕洛北のスローオフ、お互いパスカッ

トとパスミスでリズムがつかめない。3分過ぎに洛北・高山のシュートで先制。さらに速攻から乾が追加点を決めて調子が出始める。鶴崎も日名子の個人技や粘り強いディフェンスを見せるも洛北の勢いをなかなか止められず、7対3と差が広がる。〔11～20分〕洛北、鶴崎ともにダブルポストで攻めるが、鶴崎のディフェンスの乱れたところを確実に攻める洛北が得点を重ねる。鶴崎は大戸、日名子がポストで決め、ディフェンスが高い位置で止めにいくも、ダブルポストからの素早い展開でディフェンスを乱される。〔21～30分〕ディフェンスをなかなか崩せない鶴崎に対し、洛北は南出、乾が確実にシュートを決める。24分半に鶴崎・日名子が退場、乾が7mスローを決めるが、以降終了まで点が止まってしまう。鶴崎は攻撃のリズムが合わずなかなか仕掛けられないが、平川のシュートが決まって前半を終了する。

【後半】〔1～10分〕立ち上がりからパスミスが相次ぐ鶴崎に対し、得意のダブルポストで確実に得点する洛北。鶴崎はこの10分で平川の7mスローの1点のみと攻め手を欠く。速攻でお互いパスミスをするが、洛北・錦織が落ち着いて決め、14点差とする。〔11～20分〕鶴崎・平川がディフェンスの間を攻めて7mスローを獲得、これを確実に決める。さらにポストへのパスをカットし、河村がサイドで追加点。11分半に洛北・坂田が退場して優位になるが、洛北・竹中にシュートを決められ、差を詰めることができない。洛北はオフェンスからの戻りが速く、鶴崎の速攻を許さない。〔21～30分〕鶴崎・古野が連続ゴールを決める。お互いパスカットから速攻につなげるが、ミスが目立つ。その後は交互にゴールを決めるが、鶴崎・平川の7mスローをGK吉井がセーブし試合終了。

高松商業 26（13－6、13－18）24 四天王寺

【前半】〔1～10分〕前半開始直後から両校の堅い守りにより互角の戦いが続く。四天王寺のポストを使った攻撃に対し、高松商のコンビネーションプレーでサイド勝負の攻撃で緊迫したゲームが続く。〔11～20分〕高松商・河田を中心に連続得点を重ね、リードを広げていく。一方、四天王寺も点差を縮めたいところだが高松商の堅いディフェンスをなかなか崩すことができなかった。〔21～30分〕さらに高松商はセンター・藤本が攻撃のリズムをつくり、点差を広げていく。四天王寺はあと一歩のところでミスが重なり、思うような攻撃ができずに前半を7点差のビハインドで終える。

【後半】〔1～10分〕後半に入り、両校持ち味を活かした激しい攻撃で点数を取り合っていく。多彩な攻めでまったく譲らず交互に得点を重ね、互角の戦いとなった。〔11～20分〕息を吹き返した四天王寺は積極的な攻めで高松商に退場者を出させる。その隙をついて6番高山を中心に徐々に点差を縮めていく。〔21～30分〕四天王寺の反撃はさらに続き、ポストシュートも決まり、流れを引き寄せていく。ついに点差は2点まで縮まるが、高松商が粘る四天王寺をなんとか振り切った。

◆決　勝

洛　北 31（17－10、14－10）20 高松商業

【前半】〔1～10分〕高松商のスローオフ。互角の立ち上がりから河田のカットインで高松商が先制。洛北は乾の速攻で追いつき、さらにポストにつないで逆転。ポストのマークがきつい高松商は和泉、河田がミドルから狙うがブロックされる。しかし7mスローを獲得して河田が落ち着いて決めて4対3とする。〔11～20分〕高松商のディフェンスがポストに対応し始め、パスがつなげられないものの、洛北・乾の調子がさらに上がり、ミドルシュートを隅に決めるなど、この10分間で6得点の活躍。高松商は連続失点に加えて河田の退場で苦しい展開となる。〔21～30分〕ディフェンスを崩せず消極的なプレーが多くなる洛北に対し、高松商も攻め手を欠いてくる。それでも乾のスカイ、高山のカットインで得点する洛北と、相手ミスからの速攻と河田の7mスローで追いすがる高松商。

【後半】〔1～11分〕開始すぐに洛北・高山が退場し、点差を縮めたい高松商だったが、ポストプレーがなかなかつなげられず、河田がシュートに行くが、洛北ディフェンスに阻まれる。洛北は乾のカットインや錦織のミドルで着々と得点を重ねる。〔11～20分〕洛北は5連続得点でさらにリードを広げる。高松商はディフェンスからの速攻で攻めにいくも洛北の戻りが速く、チャンスを作れない。それでも洛北・高山の2回目の退場で和泉が7mスローを落ち着いて決め、さらに藤本が速攻を決める。〔21～30分〕洛北・高山、錦織が果敢に攻めていく。高松商も藤本、河田を中心に攻撃を仕掛けてサイドに展開するが、GK大西にセーブされる。洛北は終盤まで走り負けず、王者の貫禄を見せつけた。



写真提供：スポーツ・イベント社



写真提供：スポーツ・イベント社

～レフェリングの難しさ～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

北京五輪アジア予選のやり直しをめぐり、アジア連盟（ＡＨＦ）などが国際連盟（ＩＨＦ）をスポーツ仲裁裁判所（ＣＡＳ）に提訴した問題は「男子は有効、女子は無効」の裁定が下された。この結果、北京五輪には男子が韓国、女子はカザフスタンが出場することになり、直後に日本女子がルーマニアで世界最終予選に臨んだが、残念ながら１勝２敗とあと一歩で切符獲得はならず、５月下旬に予定される男子に日本として最後の望みをかけることになった。

今回の「痛み分け」裁定にはさまざまな憶測が流れているが、結局は１勝１敗の流れがＩＨＦとＡＨＦの両会長の間で出来ていたのではないかとの批判も飛びかっている。それはともかく、日本、韓国が主張した正常化は一歩ではあっても前進したと言えるだろう。

「中東の笛」はさまざまな騒動を巻き起こしてきたが、人為的な笛は別として、レフェリングの難しさをサッカーの試合で最近つくづく思い知らされた。

しかも１カ月間で２度も。１度目はゼロックス・スーパーカップ。昨年度のＪリーグ王者の鹿島と天皇杯準優勝の広島の試合。なんとイエローカード11枚、レッドカード３枚が出る大荒れの試合となった。日本サッカー協会の審判委員会は「判定はほぼ妥当」との判断を示したが、一方で「試合をコントロールできず、選手の信頼を得られなかった」として、この主審を一定期間Ｊリーグの審判から外すことを決めた。

実はこの審判は国内に９人いるプロ審判の一人。06年９月には判定に一貫性がないと１カ月間の研修を命じられている。そうした審判をシーズンの判定基準となる試合に割り当てたことにも問題がないとは言えまい。

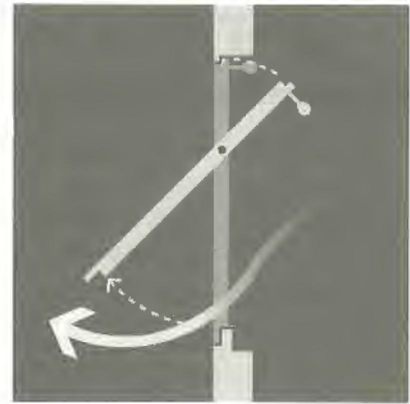
２試合目はＪ２リーグ、広島と水戸戦。この試合もイエロー６枚、レッド３枚が出る大荒れ。両チームの選手が冷静に対応したため混乱は避けられたが、やはり判定に微妙なズレがあり、コントロールできない不手際があったと言える。

審判も人間。ミスもある。一時的にしろ感情的になることもあるだろう。しかし、選手とうまくコミュニケーションをとることは必要だろう。互いに信頼感が生まれてこそ、選手はそれぞれが持つ技術のすべてを発揮できる環境が整うことになる。問題が起きなければＯＫではあるまい。今回見たサッカー２試合を通じて改めて「レフェリングは難しい」と感じた。

呼吸する建築







Swindow●スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。



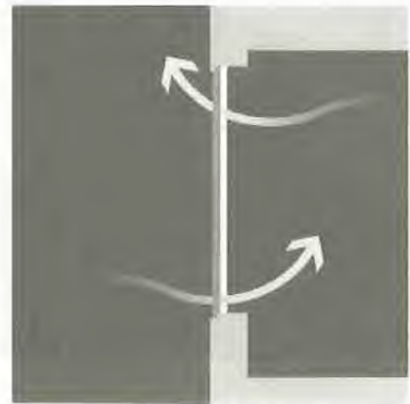




Wincon●ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon●キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL(03)5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

第6回ハンドボールコーチング研究会

（財）日本ハンドボール協会 普及指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

本研究会は平岡秀雄研究会代表（東海大学）を中心に、2003年3月熊本県山鹿市で第1回のコーチング研究会が開催され、今年は早くも第6回を迎えました。昨年からは村松日本協会参事（駒澤大学）の協力を得て、会場を駒澤大学に移し、日本リーグ男子プレーオフ（3月15日、16日）に併せて開催しました。本年は学部生等にも門戸を広げ、多くの参加者が募りました。

本研究会は、学術的な研究を中心としたものではなく、指導者の経験・知見を持ち寄り、伝え合う場です。発表方法や研究方法を議論するのではなく、自分の考える指導法の有効性や動作・ゲーム分析の視点などコーチが抱える問題を議論し、助言して助け合う機会として利用されることを特に希望しています。

もちろん、学術的にも評価される研究の場でありたいとも考えています。そこで、本研究会の発表原稿は「抄録」として扱っています。これは、本研究会で発表して頂いた内容を論文形式に手直しし、ハンドボール協会誌「ハンドボール研究」に論文として発展させ、投稿して頂けることを期待してのものです。

この研究会が今後益々発展し、先生方だけでなく多くのコーチを巻き込み、ハンドボールの指導・分析視点や事例を発表して頂き、コーチの資質を切磋琢磨してゆきたいと考えます。

さらに、全国の熱心なコーチを多く集めて、「ハンドボール学会」にまで発展させられればと考えております。

また、平岡代表の大学退職に伴い、田中守日本協会評議員（福岡大学）が本研究会の世話人代表に交代することが、研究会終了後の総会において承認されました。


平岡研究会代表


角日本協会担当理事

第6回コーチング研究会参加会員
（順不同・敬称略）

浅野幹也（日本ウェルネススポーツ）
市村志朗（東京理科大学）
小沼嘉樹（東海大学）
亀井明子（国立スポーツ科学センター）
菅野富夫（早稲田中・高校）
木野　実（環太平洋大学）
工藤夏子（伊藤超短波）
栗山雅倫（東海大学）
小西正寿（小山南高校）
小藪憲次（ソニーセミコンダクタ九州）
近藤裕之（ダートフィッシュ・ジャパン）
齋藤倫紹（福島工業高校）
清水宣雄（国際武道大学）
白井克佳（国立スポーツ科学センター）
白井　肇（筑波大学）
角　紘昭（日本ハンドボール協会）
高井久美（株式会社日輪）
田中　守（福岡大学）
谷本省司（東京農大第三高校）
田村修治（東海大学）
都志見明子（浜田商業高校）
花岡美智子（東海大学）
橋本春二（帝京安積高校）
西崎由衣（東海大学）
丸井一誠（福岡大学）
水上　一（筑波大学）
村松　誠（駒澤大学）
山下純平（筑波大学）
山本忠志（兵庫教育大学）
吉近充洋（広島女子スポーツクラブ）
平岡秀雄（東海大学）
舎利弗学（学校法人福島高校）

■1日目　3月15日（土）　駒澤大学　深沢キャンパス　会議室

開会の辞　　平岡　秀雄（研究会世話人代表）

協会代表挨拶　担当常務理事　角　紘昭（日本協会）

研究発表

発表1　ハンドボール競技のセットディフェンスにおける運動感覚意識
～F大学のインサイドディフェンスとハーフディフェンスに着目して～　丸井一誠・明石光史・田中守（福岡大学）

発表2　ハンドボール競技のタレント育成に関する一考察　―成熟度を考慮した一貫指導システムの構築―
山本忠志，柳本大地（兵庫教育大学）

発表3　ハンドボールにおける傷害発生要因　―環境が傷害発生に与えるリスクについて―　花岡美智子（東海大学）

発表4　北京オリンピックアジア予選分析報告　舎利弗学（学法福島高校），田村修治（東海大学），佐藤壮一郎（大同工業大学）

発表5　ハンドボール選手に適した間欠的運動能力評価法の検討
市村志朗（東京理科大学），森口哲史（日本伝統医療科学大学院大学）

発表6　第18回女子世界選手権フランス2007における日本チームに関する研究
～形態、国際試合経験について（IHF公式HPデータを基に）～　山下純平、水上一（筑波大学）

午後　男子プレーオフ　観戦

■2日目　3月16日（日）　駒澤大学　深沢キャンパス　会議室

研究発表

発表7　ハンドボール女子代表選手の食事摂取の現状
亀井明子、海老久美子、横田由香里、辰巳和佳子、上村香久子、小松裕（国立スポーツ科学センター）

発表8　ハンドボールにおけるゲーム体力を評価するためのフィールドテストの開発
白井克佳（国立スポーツ科学研究所），斉藤慎太郎（大同工業大学），栗山雅倫（東海大学），安達隆博（九州産業大学），花岡美智子（東海大学），小笠原一生（国立スポーツ科学センター），佐藤壮一郎（大同工業大学），田村修治（東海大学），田中守（福岡大学）

発表9　ハンドボールにおけるゴールキーピングパターンについての考察　栗山雅倫（東海大学）

発表10　学生トップチームの戦術プレイに関する考察　清水宣雄（国際武道大学）

発表11　ハンドボールのプレーの評価についての提案
平岡秀雄，花岡美智子，栗山雅倫，田村修治（東海大学），水上一（筑波大学）

機器の紹介　スポーツ分野における物理療法の可能性　工藤夏子（伊藤超短波波株式会社・日本ハンドボール協会公式サプライヤー）

機器の紹介　ダートフィッシュ社の画像処理　近藤・小林（ダートフィッシュジャパン）

研究会終了後

ハンドボールコーチング研究会　総会

議題：1　世話人代表の交代

2　会計報告

3　その他

午後　男子プレーオフ　観戦

「第13回アジア男子選手権大会兼2009年世界選手権大会予選」のＴＤ参加所見

(13th Asian Men's Championship-Qlf.for 2009 MWC-CRO,17-26 Feb 2008 Esfahan-Iran)

IHF&AHF/MC　西山 逸成

本大会実施の経緯；

2008年度のAHF/IHFの事業として設定されていたが、「2008北京オリンピック男子アジア予選　愛知・豊田大会（2007/9月）」における「中東の笛」（IHFがドイツペアーを派遣したがAHFがIHF資格のないJORペアーを起用）に対する日・韓両国のIHF理事会に対する問題提起から男女アジア予選のやり直しが決定され、IHFからTD３名とレフェリー２ペアーの派遣により、2008年１月29日女子（デンマークペアー）、30日男子（フランスペアー）再予選が国立代々木体育館で実施され、男女とも韓国が北京オリンピック出場権を獲得した。(2008/3/20,CASスポーツ仲裁裁判所は女子の再予選を無効とした)

AHFはこの再予選を不服とし、IHF（国際連盟）をCAS（スポーツ仲裁裁判所）に提訴しているが、IHFは本事案を契機に、“世界選手権・オリンピックへの大陸予選を全てIHFの直接管理の下で組織・運営を実施すること即ち、IHFによるテクニカルデレゲート（Technical Delegate）の指導監督（指名はAHF)、IHFレフェリーの直接指名（AHFレフェリーの指名はAHF）および参加チームの資格認定とすること”が決定された。

したがって、本大会も当初、AHFの反対はあったがIHFからのTDおよびレフェリー２ペアー（ロシア/ウクライナ）の派遣により予定どおり2008年２月にEsfahan/Iranで実施された。

１．大会日程・成績・オフィシャル（TD／主審）；

日・時	試合	試合成績	主審	TD（テクニカルデレゲート）	ドーピング検査
17/16:00	01	IRI 36-28 CHN	RUS	KUW/Kharaf&BRN/Mohammad	実施決定
18:00	02	KOR 36-27 UAE	CHN	OMN/Farida & SYR/Zoheir	未契約
20:00	03	KUW 26-24 BRN	IRI	IRI/Saeid & SYR/Zoheir	
22:00	04	JPN 28-28 KSA	UCR	BRN/Mohammad & IHF/Ramon	
18/16:00	05	BRN 37-26 LIB	JOR	JPN/Nishiyama & IHF/Ramon	
18:00	06	QAT 30-29 UAE	SYR	BRN/Mohammad & IHF/Ramon	
20:00	07	KUW 33-28 CHN	UCR	IRI/Saeid &　SYR/Zoheir	
22:00	08	KOR 32-25 JPN	RUS	KUW/Kharaf&BRN/Mohammad	
19/16:00	09	IRI 34-27 LIB	CHN	JPN/Nishiyama & SYR/Zoheir	
18:00	10	QAT 28-31 KSA	IRI	IRI/Saeid & IHF/Ramon	
20/14:30	11	KUW 29-22 LIB	SYR	JPN/Nishiyama & SYR/Zoheir	検査室
16:30	12	KOR 31-30 KSA	UCR	KUW/Kharf & BRN/Mohammad	
18:30	13	BRN 35-39 CHN	RUS	IRI/Saeid & IHF/Ramon	
20:30	14	JPN 44-27 UAE	LEB	OMN/Farida & SYR/Zoheir	
21/16:00	15	IRI 32-33 BRN	UCR	JPN/Nishiyama & IHF/Ramon	
18:00	16	QAT 32-31 JPN	LEB	IRI/Saeid & KUW/Kharaf	
22/14:30	17	UAE 26-31 KSA	JOR	KUW/Kharaf&BRN/Mohammad	契約確認
16:30	18	CHN 28-27 LIB	SYR	OMN/Farida & SYR/Zoheir	検体数16
18:30	19	KOR 31-23 QAT	IRI	IRI/Saeid & IHF/Ramon	
20:30	20	KUW 34-35 IRI	RUS	BRN/Mohammad & SYR/Zoheir	
24/14:00	21	LIB 25-38 UAE	CHN	OMN/Farida & KUW/Kharaf	現場調整
16:30	22	KUW 32-29 KSA	UCR	IRI/Saeid & SYR/Zoheir	4検体
19:00	23	KOR 33-24 IRI	RUS	SYR/Zoheir & IHF/Ramon	4検体
25/14:30	24	CHN 35-38 JPN	SYR	OMN/Farida & KUE/Kharaf	
17:00	25	BR（帰国）- QAT	JOR	IRI/Saeid & Syr/Zoheir	
26/14:30	26	IRI 23-24 KSA	UCR	KUW/Kharaf & SYR/Zoheir	4検体
17:00	27	KOR 27-21 KUW	RUS	IRI/Saeid & IHF/Ramon	4検体

註；IHF（国際ハンドボール連盟）・AHF（アジアハンドボール連盟）
BRN（バーレン）・CHN（中国）・IRI（イラン）・JOR（ヨルダン）・JPN（日本）
KOR（韓国）・KUW（クエート）・LIB（レバノン）・OMN（オマーン）・
RUS（ロシア）・SPN（スペイン）・SYR（シリア）・UCR（ウクライナ）

2．TD 構成と試合の担当状況；AHF が指名・調整実施

所属／担任	ＴＤ・氏名 (国名)	担当試合	摘要
IHF/COC 委員長	Mr.Alexander.KOZHUKOV (RUS)	大会運営の監督指導・IHF/Refree 指名 注；豊田予選（2007/ 9月）時に来日。	
IHF/PRC	Mr.Ramon GALLEGO (ESP)	4・5・6・10・15・19・23・27	
AHF/TD	Mr.Nahar ALASFOOR (KUW)	AHF / TD 責任者	
AHF/PRC	Mr.Khalaf ALENEZI (KUW)	1・8・9・12・16・17・21・24・26	
AHF/PRC	Mr.Zohair SAMHA (SYR)	2・3・7・11・13・14・18・20・22・23・25・26・	
AHF/COC	Dr.Saeid RAJAEI (IRI)	3・7・10・16・19・22・25・27	
AHF/MC	Dr.Issei NISHIYAMA (JPN)	5・9・11・15 (22・23・26・27)	Doping
AHF/CPP	Mr.Mohhamad TALEB (BRN)	1・4・6・8・12・17・20	
AHF/CPP	Ms.Farida ELSIEBANI (OMA)	2・13・14・18・21・24	
AHF/	Mr.Ehab NOUR (KUW)	AHF 事務局、記録	
AHF/	Mr.Mahmoud MOUSA (KUW)	AHF 事務局、記録	

3．レフェリー構成と全 (27) 試合の指名・担当状況；
IHF/Ref のみは、Mr. KOZHKOV が指名

所属	Refree・氏名 (国名)	担当試合	IHF の担当面
IHF	VICTOR / IGOR (RUS)	1・8・13・20・23・27	担当試合指名
IHF	VAKULA / LJUDOVIK (UCR)	4・7・12・15・23・26	担当試合指名
AHF	TALAL / ZAIN (JOR)	5・17・23	評価・指導
AHF	BASSAM / GHASSAN (SYR)	6・11・18・24	評価・指導
AHF	MAZEN / MOHAMMAD (LIB)	14・16	評価・指導
AHF	MAJID / MOHSEN (IRI)	3・10・19	評価・指導
AHF	LU / CHEN (CHN)	2・9・21	評価・指導

4．IHF の大会管理状況；

IHF の直接管理下で実施される初めてのアジア選手権兼男子世界選手権大会における IHF の管理態勢の狙いは、公正な TD 及び審判員の構成による正常な大会運営である。

1）TD ／審判の指名；

TD・レフェリーの指名は、毎朝のテクニカルミーティングで実施された。TD は AHF が指名するが、レフェリーの指名は、IHF 派遣レフェリーのみは Mr.KOZHUKOV からの事前の指名後に、AHF レフェリーは AHF が指名した。

2）TD ／審判終了後の反省・指導講習会状況；

連日、毎朝のテクニカルミーティング（TD のみ）の終了後、レフェリーの教育講習会が Mr. Ramon GALEGO（IHF/PRC）により前日の試合 DVD で実施された。

3）Mr.KOZHUKOV による審判状況の所見では“公正・正常そして審判技術面では問題点無し”との連日のミーティング席上の講評であった。AHF の TD 群も審判技術面では、AHF&IHF も同一見解をレフェリーグループ間で確認し合っていた。

5．ドーピング・コントロール（以下、ドーピング検査と記述）の実施状況；

1）ドーピング検査の実施計画の作成・経緯；

当大会が世界選手権大会予選を兼ねる大会でありながら、大会組織委員会内にドーピング検査に関する担当者不在、検査計画の無いことに驚いた。

イランに向けての離日前日に IHF（アンチドーピング委員会 Prof Hans HOLDHAUS）から当大会におけるドーピング検査の指示（責任者に Dr.nishiyama 指名・検査対象試合の指定・検体数）を受信していたので、よもや未計画とは想定していなかった。

大会開始４日目（20 日）にようやく大会会場に隣接した礼拝所施設にドーピング・コントロールルーム（トイレ・待機室・検査室）を開設し、大会６日目（22 日）に NADA（IRAN アンチドーピング機構）担当者と検査班編成・検査要領・検体数および検査の対象試合（準決勝および決勝）等について調整し、大会８日目（24 日検査当日）にようやく以下のドーピング検査班員８名に対して、配置現場での調整を終えた。

2）ドーピング検査班の編成；

IHF&AHF DCO：Dr.Issei NISHIYAMA（IHF/MC、AHF/MC 委員長）

DCO：Dr.Ari Taheri（NADA Vice President）— 24 Feb

DCO：Dr Arash Mamdoohi Nia（Director web-site、International DCO）— 26 Feb

SHAPERON（選手のエスコート・監視）：24&26/Feb ６名（NADA 所属女ー１、男ー５）

3）検体分析所（Laboratory for Doping Analysis）；

検体の分析依頼先は、ドイツのコロンスポーツ大学ドーピング検体分析所（Laboratory for Doping Analysis German Sports University Cologne — Carl-Diem-Weg6 DE-50933 Koin Germany Tel:（49.221）498 24 920 Fax㊀49.221）497 32 36, E-mail: schaenzer@biochem.dshs-koein.de

検体の輸送は NADA DCO により 24 Feb,26 Feb のそれぞれ翌日に検体分析所に空輸された。

検体搬送書には IHF&AHF DCO の署名欄もなく、署名も求められなかったし、そのコピーの送付もなかった。

4）公式記録書（DOPING CONTROL FORM）；

ドーピング検査対象選手の選出後、検査室で使用する公式記録書には NF・AHF・IHF 何れの署名欄も設けられていないので、検査２日目から「COMMENTS」欄に AHF・IHF/DCO で署名した。

5）ドーピング検査対象選手の抽出方法；

イランNADAが大会前に提示した抽出方法（大会時の検査）は、NADAが任意に提示する2枚のカードNOが検査の対象選手となる方法で、イラン国内の競技会検査は全てこの方法とのことであったが、当大会はIHF規則の適用での実施を要請しイランNADAの応諾を得た。

6．TDの立場からの本大会の要約

1）レフェリー所見；

北京アジア予選時（2007年9月豊田市）ではIHFからMr.A.KOZHUKOV（IHF/COC）とレフェリー（ドイツ）を派遣された。AHF/TDはテクニカルミーティングでMr.A.KOZKOVの指名を拒否した状況とは一変した。本大会ではIHF指示によるIHF主導の大会としてAHFが受け止めざるを得ない状況下の大会であったため、IHFレフェリーへの各チームの評価およびテクニカルミーティングにおける評定では“Good Refree”の声が聞かれた。

AHFレフェリーに対しても概して拒否姿勢は聞けなかったが、“あんなレフェリングでは練習方法も変えなくては…”の声もあったので、AHFのレフェリー水準もヨーロッパ水準には今だしと受け止めた。

2）競技力水準；

本大会結果により、2009年クロアチアにおける男子世界選手権にはKOR・KUW・KSAが出場権を獲得したが、開幕前の多くの予測はKUW・KOR・JPN・IRIの中からとの予測であったが、JPNがよもやQATに敗れるとは…。しかも前半には6点差で折り返しながら最終的には1点差で敗退…。オフィシャル席の多くのTD&レフェリー群からの慰みに我ながら胸を痛めた。

3）参加チームのオフィシャル席とのコミュニケーション；

国際試合時に何時も感じることであるが、大会オフィシャル群とのコミュニケーションを図ることは、その参加大会もさることながら過去の大会、更には将来の大会も含めてチームにとっても有益なものが得られることが期待できるので積極的なコンタクトが望ましいのではなかろうか。

例えば、KORチームを例にとると、試合終了直後コーチが「マッチレポート」のコピーを受領し、その際、記録にレッドカード退場者があれば、翌日ゲームの出場の可否を確認していることである。

オフィシャル（担当レフェリー）はその確認に対してその都度“担当レフェリーからそのレッドカード選手に対するコメントを付したレポートがない限り当該選手への罰則はありえない。したがってテクニカルミーティングの実施・指示もないのでその選手の運用への制約はない。”

4）国際大会時の参加規律の遵守；

本大会試合BRN/QAT（NO24-5・6位決定戦）を25日にした23日、突如としてBRNチームが順位決定方法についての不服から帰国したことにより、テクニカルミーティングがもたれたが、以下の判断により厳しいペナルティーを科すことが決議された。

①順位決定方法は、現行規則による正当性に何の問題もない。BRNの抗議は却下された。

②24日NO24の試合に出場すべきであり、不参加時はQATが勝者となる。

③以上の経過に対する罰則はAHF規則（CONCERNING PENALTIES AND FINES）他関係規則により適用する。

以上の経緯を受け、TDメンバーのMr.Mohammad TALEB（BRN）が急遽の対応で帰国した。

5）ドーピング検査の実施状況；

ハンドボール競技におけるドーピング検査に関する規則はその大会の特性によってIHF・AHF・JHAの規則が適用されているが、主催国のNADA（National Anchi Doping Association）によっては必ずしも「ハンドボール競技アンチドーピング規則」によるドーピング検査が準備計画されていないのが現状である。

2006年アジア大会・西アジア大会・ユース世界選手権大会（何れもDOHA/QAT）そして今回の13回男子アジア選手権兼世界選手権（イラン）もそれぞれ担当母体によって異なっている検査方法をハンドボール競技方式への説得そして講習が何時ものストレスとなっているが、事前のIHFからの組織依頼は頼んでもなぜか実現を見ない。

今回の特筆は、ハンドボール競技のドーピング検査には抽選・レッドカード・ドーピングの疑いの3つのカテゴリーがあるが、本大会ではレッドカード退場者の待機所は中央オフィシャル席後方に設け観察・指名を効率化した。

以上、本号の記述に当たっては、現在5名のAHF役員がリストされているが、その活動も十分でなく、また役員相互の連携も不十分である現状を脱し、今後のIHF/AHF国際要員に多くの識者が新たに加わり、日本チームの活動に有意に関与することの意義と必要性を願望したい気持ちから現状の一端を記述した。



左から、イランオフィシャル、筆者、TD(KUW) Mr.KHALAF ALENEZI、イランオフィシャル



左から、Mr.EHAB NOUR（AHF事務局）、TD(IRN) Dr.SAEID RAJAEI、筆者、TD(SYR)Mr.ZOHAIR SAMHA

ドクター・水素水 —— 特殊セラミックTスティック

簡易型水素発生「生」水器（水素発生ミネラルスティック）

豊富な水素が 水を変える！

フレンディアはJADMA（日本通信販売協会）の正会員です。

JADMA
社団法人日本通信販売協会会員

健康は毎日の飲料水から…



※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。



500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（ＮＰＯ認証 東京都）



当商品は認定を受けています。
http://www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／18×122mm



価格／1箱3本入り 13,440円（税込み）

水の入ったペットボトルなどの容器にスティックを入れるだけ。
2リットルの水道水にこれ１本！
しかも**6ヶ月と長持ち**です。
１日2リットル作ったとして、
たったの24円と経済的。



株式会社フレンディア

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-7 丸栄ビル6F
TEL：03-5728-3360 FAX：03-5728-3363
フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.friendear.co.jp

スコアールーム ①

第37回全国高校選抜大会

開催期日：2008年3月25日（火）～30日（日）
会　場：徳島市・徳島市立体育館ほか

【男　子】

▼1回戦

境（鳥　取）	46	（25－12、21－18）	30	羽　後（山　形）
明　星（東　京）	30	（13－13、17－9）	22	高松工芸（香　川）
法政二（神奈川）	24	（11－11、13－7）	18	大分雄城台（大　分）
市　川（千　葉）	31	（15－17、16－11）	28	高山西（岐　阜）
大体大浪商（大　阪）	38	（17－15、21－18）	33	横浜創学館（神奈川）
市立岐阜商（岐　阜）	40	（19－17、21－13）	30	徳島市立（徳　島）
長崎日大（長　崎）	30	（17－11、13－12）	23	富　岡（群　馬）
興　南（沖　縄）	28	（13－9、15－11）	20	大同工大大同（愛　知）

▼2回戦

北　陸（福　井）	46	（23－12、23－8）	20	境（鳥　取）
那覇西（沖　縄）	30	（16－11、14－10）	21	国学院大栃木（栃　木）
愛　知（愛　知）	26	（17－8、9－10）	18	洛　北（京　都）
明　星（東　京）	51	（25－5、26－10）	15	帯広三条（北海道）
法政二（神奈川）	32	（14－9、18－9）	18	此花学院（大　阪）
駿台甲府（山　梨）	32	（13－9、19－16）	25	氷　見（富　山）
学法石川（福　島）	37	（15－13、22－10）	23	岩国工（山　口）
瓊　浦（長　崎）	31	（14－11、17－14）	25	市　川（千　葉）
不来方（岩　手）	34	（12－13、22－9）	22	大体大浪商（大　阪）
小林工（宮　崎）	28	（14－9、14－7）	16	小松工（石　川）
浦和学院（埼　玉）	42	（20－9、22－8）	17	紀北農芸（和歌山）
下松工（山　口）	32	（19－11、13－16）	27	市立岐阜商（岐　阜）
長崎日大（長　崎）	33	（16－14、17－14）	28	香川中央（香　川）
育　英（兵　庫）	41	（20－21、21－16）	37	札幌月寒（北海道）
湯　沢（秋　田）	21	（11－8、10－12）	20	高岡向陵（富　山）
藤代紫水（茨　城）	32	（15－11、17－20）	31	興　南（沖　縄）

▼3回戦

北　陸	40	（15－17、25－15）	32	那覇西
愛　知	41	（23－16、18－13）	29	明　星
法政二	35	（16－14、13－15） （6　延長　3）	32	駿台甲府
瓊　浦	31	（19－11、12－16）	27	学法石川
小林工	30	（19－10、11－12）	22	不来方
下松工	24	（11－13、13－6）	19	浦和学院
長崎日大	39	（15－10、24－11）	21	育　英
藤代紫水	42	（19－13、23－15）	28	湯　沢

▼準々決勝

北　陸	37	（19－14、18－17）	31	愛　知
瓊　浦	32	（15－16、17－8）	24	法政二
小林工	27	（10－15、17－8）	23	下松工
藤代紫水	37	（18－11、19－24）	35	長崎日大

▼準決勝

北　陸	36	（21－17、15－18）	35	瓊　浦
藤代紫水	38	（17－14、21－7）	21	小林工

▼決　勝

北　陸	43	（20－23、23－13）	36	藤代紫水

▼最終順位

優　勝　**北陸高校（福井県）**
準優勝　藤代紫水高校（茨城県）
第3位　瓊浦高校（長崎県）
第3位　小林工業高校（宮崎県）

▼最優秀選手

平子　卓人（北　陸・福井）

▼優秀選手

木村　昌丈（藤代紫水・茨城）
会田　亮祐（藤代紫水・茨城）
池辺　大貴（藤代紫水・茨城）
藤江　恭輔（北　陸・福井）
池上　直輝（北　陸・福井）
判田伊久馬（瓊　浦・長崎）
西水流成彬（小林工・宮崎）

▼有望選手

萩原　良太（駿台甲府・山梨）

【女 子】

▼1回戦

水海道第二（茨　城）	31	（14－11、17－8）	19	聖和学園（宮　城）
佼成学園女子（東　京）	37	（20－10、17－5）	15	城　北（徳　島）
横浜南陵（神奈川）	33	（17－4、16－11）	15	静岡城北（静　岡）
大分鶴崎（大　分）	33	（16－4、17－3）	7	氷　見（富　山）
飛騨高山（岐　阜）	27	（10－14、17－12）	26	福井商（福　井）
暁（三　重）	35	（16－12、19－10）	22	浦　添（沖　縄）
盛岡第二（岩　手）	28	（13－13、15－14）	27	名古屋市立向陽（愛　知）
栃木商（栃　木）	41	（22－6、19－8）	14	滋賀学園（滋　賀）

▼2回戦

洛　北（京　都）	31	（19－12、12－12）	24	水海道第二（茨　城）
福岡女子商（福　岡）	30	（13－8、17－13）	21	高　水（山　口）
小松市立（石　川）	49	（24－8、25－12）	20	札幌丘珠（北海道）
名古屋経大市邨（愛　知）	25	（15－6、10－13）	19	佼成学園女子（東　京）
那覇西（沖　縄）	28	（12－8、16－12）	20	横浜南陵（神奈川）
不来方（岩　手）	30	（11－11、11－11）（8延長3）	25	宣　真（大　阪）
昭和学院（千　葉）	23	（11－10、12－12）	22	香川中央（香　川）
大分鶴崎（大　分）	31	（18－11、13－9）	20	明　石（兵　庫）
四天王寺（大　阪）	25	（10－11、15－9）	20	飛騨高山（岐　阜）
東邦大東邦（千　葉）	26	（14－11、12－14）	25	大曲農（秋　田）
吉　井（群　馬）	40	（21－12、19－10）	22	釧路江南（北海道）
暁（三　重）	31	（11－5、20－9）	14	玉野光南（岡　山）
文大杉並（東　京）	36	（18－12、18－12）	24	盛岡第二（岩　手）
高松商（香　川）	44	（21－8、23－6）	14	夙川学院（兵　庫）
宮崎学園（宮　崎）	34	（19－9、15－14）	23	徳　山（山　口）
高岡向陵（富　山）	29	（13－14、16－9）	23	栃木商（栃　木）

▼3回戦

洛北	38	（21－5、17－13）	18	福岡女子商
名古屋経大市邨	30	（15－17、15－12）	29	小松市立
那覇西	35	（16－12、19－14）	26	不来方
大分鶴崎	26	（10－12、16－13）	25	昭和学院
四天王寺	28	（12－5、16－4）	9	東邦大東邦
暁	33	（15－6、18－12）	18	吉井
高松商	35	（11－12、14－13）（10延長4）	29	文大杉並
宮崎学園	33	（17－8、16－16）	24	高岡向陵

▼準々決勝

洛北	27	（14－9、13－5）	14	名古屋経大市邨
大分鶴崎	22	（13－11、9－10）	21	那覇西
四天王寺	24	（13－6、11－9）	15	暁
高松商	29	（14－12、15－6）	18	宮崎学園

▼準決勝

洛北	32	（17－9、15－13）	22	大分鶴崎
高松商	26	（13－6、13－18）	24	四天王寺

▼決　勝

洛北	31	（17－10、14－10）	20	高松商

▼最終順位

優　勝　洛北高校（京都府）
準優勝　高松商業高校（香川県）
第3位　大分鶴崎高校（大分県）
第3位　四天王寺高校（大阪府）

▼最優秀選手

乾　彩友美（洛北・京都）

▼優秀選手

高山　彩乃（洛　北・京都）
錦織　新（洛　北・京都）
河田　知美（高松商・香川）
藤本　汀（高松商・香川）
平川　愛里（大分鶴崎・大分）
上田　美結（四天王寺・大阪）
池原　綾香（那覇西・沖縄）

▼有望選手

安倍　千夏（不来方・岩手）

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】松　喜美夫、小島　収治　【岩手】中舘　豊　【福島】今野　雅益　【茨城】稲吉　繁、田中　汀子、田中　将　【群馬】伊崎　克巳　【埼玉】細津　誠、小川　秀樹、関谷　宗男、高田　誠　【千葉】外山　朝子、勝俣　裕二、吉田　修、大綱　宏実、石橋　茂、石橋　美保　【東京】遠藤　優斗、渡部　美乃里、西村　興八、滝本　光成、石坂　洋介、大浦　裕司、井上　保夫　【神奈川】石井　美和、加藤　明子、小林　香苗、岩柳　昌宏、杉山　義祥、植村　繁、五島　孝彦、渡辺　亜由美　【山梨】千野　恒夫　【静岡】宮岸　健次　【愛知】西口　貴子、西村　亮治　【三重】加藤　公　【岐阜】土田　英美子　【大阪】幸田　良一、古庄　哲則、四方　洋子、松林　義政、小森園多恵子　【兵庫】高井　敬二、丸茂　登茂子、丸茂　康子　【岡山】小田　千春、池田　洸樹　【高知】有光　正憲、佐賀　厚幸　【熊本】岡崎恭代

【5月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………

5月10日(土)　常務理事会(東京)



【大会】……………………………………………………………

日韓男子代表定期戦

5月3日(土)　14時～　韓国・光州市

5月9日(金)　19時～　日本・愛知県スカイホール豊田

北京オリンピックIHF世界最終予選(男子)

5月30日(金)～6月1日(日)

日本の属する第3グループはクロアチアにて開催

※次号は6・7月合併号として、7月1日に発行されます。

HAND BALL CONTENTS May.

「うまさ」と「力強さ」……………………………角　紘昭　1

オリンピックIHF世界最終予選（女子）

日本、惜しくも出場権を逃す……………………………2

北京オリンピック世界最終予選に向けて……中川善雄　4

世界を奪い返す①

北京五輪アジア予選再試合雑感…………川上整司　5

第32回日本リーグ男子プレーオフ

プレーオフを終えて………………………田中　茂　6

第32回日本リーグ成績表……………………………7

戦　評……………………………………………………8

第31回全国高校選抜大会

総　評　大会を振り返って…………………佐藤公美　10

戦　評……………………………………………………11

優勝校手記　北陸高校・志々場修二、平子卓人

洛北高校・乾彩友美……………………11

戦　評……………………………………………………12

フリースロー：レフェリングの難しさ………早川文司　15

指導委員会コーチング研究会報告⑭

第6回ハンドボールコーチング研究会………舎利弗　学　16

医事委員会だより：「第13回アジア男子選手権大会兼

2009年世界選手権大会予選」のTD参加所見

……………………………………………………西山逸成　18

スコアールーム：

第31回全国高校選抜大会……………………………22

10万人会3月会員／5月の行事予定／目次……………24

（登録チームの購読料は登録料に含む）



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第四九〇号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十年四月二十六日印刷 平成二十年五月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一 電話 代表〇三ー三四八一ー二三六一 振[illegible] 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円